

第 24 回ユフロ世界大会に参加して

森林総合研究所 加工技術研究領域 渡辺憲

2014 年 10 月 5 日～11 日、米国ソルトレイクシティのソルトパレスコンベンションセンターにて第 24 回ユフロ世界大会が開催されました。今回、私は「木材の破壊靱性値を近赤外分光法によって推定する」という研究を発表する機会があったので、その所感を報告します。

開催地であるソルトレイクシティは 2002 年冬季オリンピックの開催地としておなじみです。筆者を含め、バスケットボール好きにとっては NBA の古豪ユタ・ジャズのホームタウンとしても知られており、一度は行ってみたい都市の一つですが、あいにく大会期間中はシーズンオフでした。会場となったソルトパレスコンベンションセンターはソルトレイクシティのダウンタウンに位置し、そこから北東部を見渡すと荒涼とした山が広がり、この地域が乾燥気候であることを伺い知ることができます（写真 1）。滞在期間中は晴天に見舞われ、夜は肌寒くて厚手の上着が必要でしたが、昼間は気温が上がりシャツ 1 枚で快適に過ごせました。

さて、ユフロ世界大会は森林に関わる全研究分野を対象とし、ユフロ傘下のすべてのディビジョンが一同に会します。まさに森林科学研究の祭典と呼んでも過言ではありません。2010 年の前回大会（韓国）に次いで本大会は 4 年ぶりの開催となり、約 100 カ国から 2500 人ほどの参加者がありました。参加人数の多さもさることながら、若手研究者や女性研究者の割合が多かったことが印象に残っています。

開会式ではネイティブアメリカンによる伝統演奏の催し（写真 2）があり、期間中は終始お祭りムードでした。口頭発表ではどの会場も質疑応答で熱い議論が飛び交い、盛況な賑わいを見せていました。中でも学生と思われる発表者が堂々とスピーチをする姿は、私にとって大きな刺激になったものです。それとは対照的に、ポスター発表はあまり周知されていなかったためでしょうか、会場は閑散としており寂しい印象を受けました。思う存分研究発表をされたい方にはポスターよりも口頭発表がおすすめだと思います。

今大会は 5 つの基調講演が行われ、当学会と関係の深い研究分野からはカンタベリー大学（ニュージーランド）の Andy Buchanan 博士が「Modern Timber Buildings from Sustainable Forests」という題目でご講演されました。2011 年にクライストチャーチを襲った大地震の被害状況と、その後の復興における木質構造建築物の果たす役割について話をされました。また、同氏が実施してきた木質構造部材の研究開発について紹介され、30 階や 42 階建ての高層ビルを木質構造で建設する計画がカナダやアメリカで進められている事例を挙げて、木質構造の今後の可能性を述べられました。なお大局的な視点に立って、林業と林産業（川上と川下）の連携や持続可能な社会の実現に向けた木材利用の重要性についても触れられており、木材を研究対象とする方はもちろんのこと、分野の異なる多く

の聴衆も話に引き込まれたのではないのでしょうか。この基調講演の動画は youtube に配信されているので、興味のある方は以下のサイトをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=4OJDAN6NU9Q>

以上、簡単ではありますが第 24 回ユフロ世界大会に関する私の個人的な所感を報告しました。次回は 2019 年にブラジルのクリチバで開催されます。今回は慣れない英会話に悪戦苦闘の毎日でしたが、今のうちから英会話の体力をつけて次回も参加したいと思います。



写真 1 ダウンタウンから見える山



写真 2 ネイティブアメリカンによる伝統演奏